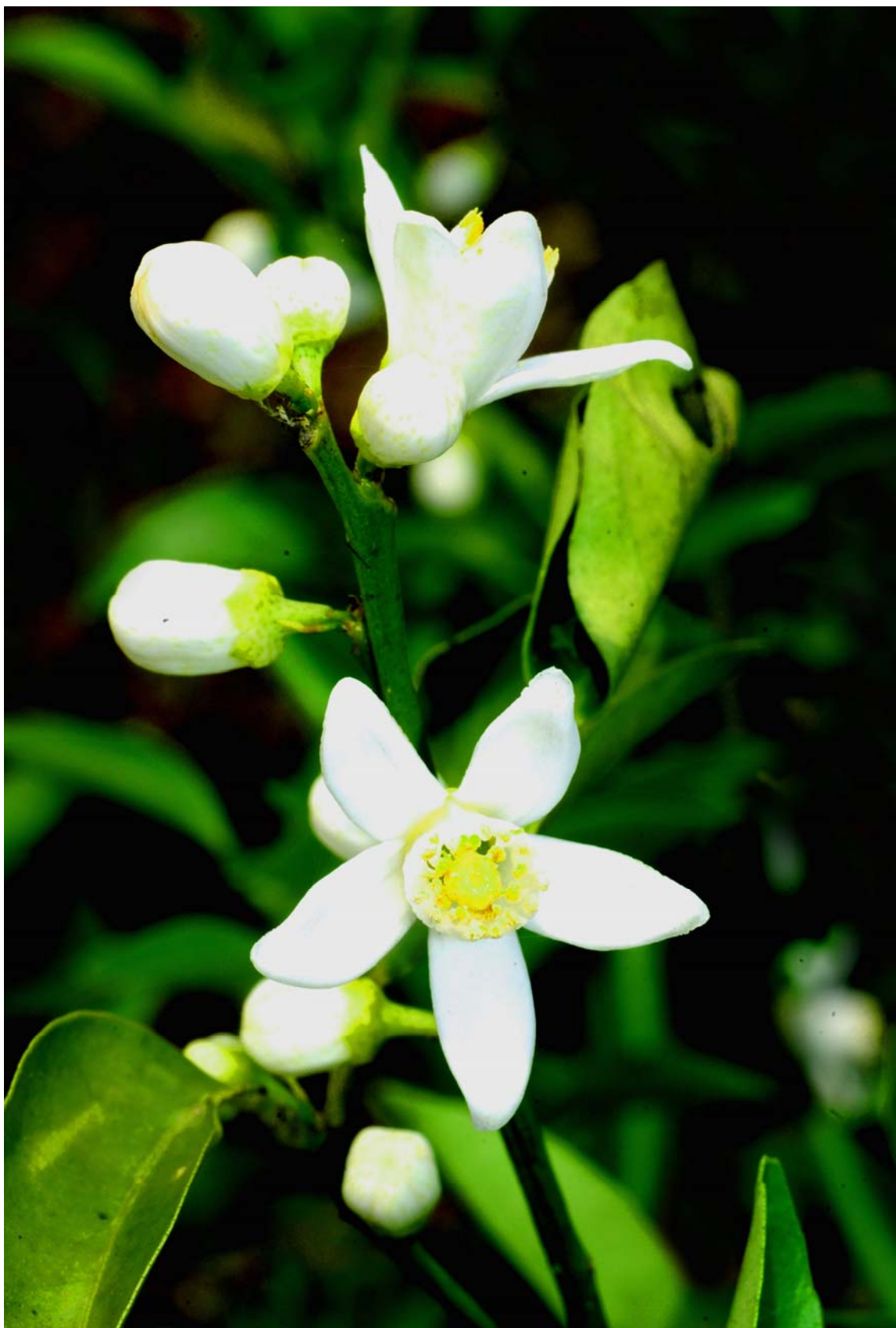


## 8) ユズ=柚子

ユズはミカン科の常緑小高木で、高さは約 4m、原産地は中国の揚子江上流である。日本の代表的な柑橘類の一つとして、昔から民家や畑の際などに植えられる。枝には長い刺があり、初夏、葉腋に小さな純白の5弁花を開く。果実はミカンほどではないが扁球形で汁が多く、直径は約 5~8cm である。果皮にはイボ状の突起が多くあり、果肉は淡黄色で酸味が強い。秋に熟すると柑橘類特有の芳香を放つ。和名の由来は酸っぱいところからユズ(柚酸)の意味で、別称はユウ、ユなどである。学名は『*Citrus junos*』、属名はミカンのところで述べたとおりで、種小辞はユズの古名ユノスに由来する。中国では『柚』とされ、これは誤用であり他の植物を指すものとされ、正しくは『香橙』もしくは『蟹橙』をあてるという。

日本に柚子が渡来したのは奈良時代から平安初期の頃と思われ、平安時代にはすでに栽培され酢の代用にされたり、食用として様々な形で利用されていた。柚餅子(ユベシ)は柚子を用いた保存食で、柚子の中に味噌、米粉、蕎麦粉などを詰めて蒸して作る。また柚子の香りは果実よりも果皮に多くあり、日本料理には欠かすことのできない香辛料で、小さく切って吸い物や椀物、茶碗蒸し、蕎麦や正月の雑煮などに添えて食べた。最近、千葉県などの特産物として柚子ジュースなども作られているが、搾汁率が良くないのと種子が多いところが課題となっており、レモンのようなわけには行かない。果実は冬至の日には風呂に入れて『柚湯』とする。これは柚湯につかると風邪を引かないとか、ヒビやアカギレを直すなどといわれていたためで、これがやがて大晦日の行事となったのだろう。その科学的な理由は、風呂に柚子を入れると血行が非常に良くなるからで、昔から「柚子が黄色くなれば医者が青くなる」ともいわれていた。柚子の黄色くなる頃は、気候も穏やかで柚子の薬効もあり、医者なんていない季節なのである。柚子はまた表皮が痘痕状であるところから、醜女のことをいうスラングでもあり、俳諧などにはその用例を多く見ることができる。

柚子の苗木は比較的簡単に手に入る。農協の売店や植木市、さらにはカタログ販売など大した苦勞はない。むしろ最近では種類も豊富なので品種選びに苦勞するかも知れない。実の大きい大実柚子の中には、直系が 15cm にも達する『獅子柚子』や『鬼柚子』などという品種もある。ちょっと変わったところでは『種子無し柚子』や『一歳柚子』などもある。庭の広さや鉢植えにするかなどを考慮して、買い求めるのが良いだろう。柚子は結実するのが早く、早いものだと 2~3 年ぐらいで実を着けるから、鉢で育てるにもあまり苦勞はない。これはほとんど全ての柑橘類にいえることだが、どちらかという温暖な乾燥地を好むので、逆に寒冷地では鉢で作った方が成績が良い。従って移植も冬に向かっているときより、春先、気温が上昇している時のほうが良い。実をよく着けるコツは、磷酸肥料を多めに与えることと、花の季節に雨に当てないこと、それにアゲハ蝶の幼虫に葉を食べられないことである。



ユズの果実はしばしば目にしても、ユズの花を見た人は少ない。柑橘類独特の香がする。



熟してきたユズ、収穫するにはもうしばらくの我慢が必要である。しかしこのユズは商品としてかなり期待が持てる美品である(埼玉県深谷市)。



熟した果実。この果実はかなりの逸品であるが、その理由はP.5で(埼玉県深谷市)。



枝いっぱいにとわわに実ったユズの果実、下方の枝はすでに収穫済みである(埼玉県深谷市)。



きれいなユズを見て戴いて、こんな写真をお見せするのも恐縮ですが、ユズの肌はあまり綺麗ではなく、アバタになってしまうことが多い。販売されているのは選ばれた果実なのである。



オニユズ(鬼柚子)は果実の直径が 15~20cm にもなる(埼玉県深谷市)。

[目次に戻る](#)